教育委員会会議の議事録（平成２９年６月定例）

◆　日　　時　　平成 29 年 6 月 28 日（水曜日）午後 2 時 00 分から午後 3 時 32 分まで

◆　場　　所　　上杉分庁舎　教育局第１会議室

◆　出席委員　　教育長　　大越　裕光
　　教育長職務代理者　　吉田　利弘
　　委員　　今野　克二
　　委員　　齋藤　道子
　　委員　　加藤　道代
　　委員　　花輪　公雄
　　委員　　中村　尚子

◆　会議の概要

１　開　　会　　午後 2 時 00 分

２　議事録承認　5 月臨時会

３　議事録署名委員の指名　今野　委員

４　報　告　事　項
（１）　市立中学校生徒の自死事案（平成 29 年 4 月）に関する諸報告について

ア　全校生徒アンケート調査結果について

（学校教育部長　報告）

教　育　長　　市立中学校生徒の自死事案（平成 29 年４月）に関する諸報告ということで、6 月 7 日の臨時教育委員会以降の本事案に関する状況等について報告を願う。

学校教育部長　　全校生徒アンケート調査は、教育委員会としてできるだけ多くの情報を収集しながら、どのような背景などがあったかを明らかにするために必要な調査であり、ご遺族の了承を得た後、5 月 2 日に全校生徒に調査用紙を配付、5 月 19 日までに回収したものである。回収状況については、配付数 258 に対し、最終回収数は 251、回収率は 97.3％だった。

設問 1 については 2 点の質問があり、１点目は、今回のことで何か知っていることはないか、見たり聞いたりしたことがあれば書いてくださいとの質問で、251 名のうち 65 名が何らかの記載をしていた。2 点目は、ここ 1、2 週間で変わったことがあったかとの質問で、これには 60 名が何らかの記載をしていた。設問 2 については、何か伝えておきたいことや相談したいことがあれば自由に書いてくださいとの質問であり、40 名から記載があった。

アンケートの結果は、当該生徒に関連する内容について、調査にご協力いただいた生徒や保護者の個人情報に配慮しながら取りまとめ、基本的に原文のまま一覧表形式でご遺族に提供している。本日の資料は、公表用資料として個人情報に配慮を

しながらアンケートの記載内容を要約するとともに、同様の内容のものはまとめて件数で示すなどし、いくつかの項目に集約、整理した上でご遺族にご確認をいただき、そのご意向も反映させた上で概要版として取りまとめたものであり、6月8日に公表しているものである。

今後、記載された内容の事実関係などについて調査を進めてまいりたいと考えている。

花　輪　委　員　　回答者の学年によって、回答に特徴的なことはあるのか。できるだけいろいろな情報を抽出すべきだと思う。特に自死された生徒より上の学年、あるいは下の学年の生徒では見方が違うのかどうか等々、特徴的なことがあるとすれば、それも学ぶべきことではないかと思う。

二つ目は、例えば当日の朝、当該生徒に接したある生徒は「顔色が悪くふらふらしていた」、ある生徒は「普通に会話した」と回答しており、同じ日の同じ朝のことであるが、見方が違っている。ある瞬間を取り出すと普通に見えたり、別のある瞬間を見ると、とても落ち込んでいたりということが日常的にも多々あることだろう。だからこそ、多くの目で生徒さんの様子を観察するというのがとても重要なことではないかなと。そういう意味で情報の共有というのは、やはりあるべきなのだと感じた。

学校教育部長　　学年による回答の内容であるが、記名か無記名かにより学年が分かるものと分からないものがある。当該生徒は2年生だが、2年生の回答の中には、具体的な回答がそれなりにあった。一方、3年生は、いじめという部分については、そういう場面を見たことがあるとか、聞いたことがあるとか、そういった記載は何件かあった。1年生は、入学して間もないということもあり、いじめという具体的な事案の記載は余り見られなかった。そういった傾向があった。

吉　田　委　員　　資料で「その他」としてくくられた部分だが、これはあくまでも公開とか概要版の作成を前提に、個人情報や遺族の意向を踏まえた結果、「その他」としてくくらざるを得なかったとの理解でよろしいか。

学校教育部長　　お話のとおり、基本的にはご遺族の意向なども反映した結果、「その他」という表現になった経過がある。

加　藤　委　員　　このアンケートは、亡くなられた生徒さんにまつわる出来事の詳細を知るためのものであることはもちろんだが、それと同時に、花輪委員からもお話があったように、例えば26日の朝に直接会話をしているお子さんがいたり、かかわっているお子さんがいたりということも、これによって分かる。それが誰であるかも、記名されていれば分かると思う。その場合、書いてくれた生徒が、この事案を特に自分に引きつけて何か感じているのではないかとか、例えば3年生が伝聞として書いたとしても、非常に衝撃的に受け止めて動揺を招いているのではないかとか、ここに記入してくれた生徒たちの状況を知る上でも重要な情報になると思う。これは、その後の学校へのフォローにも関わることであり、このアンケートをそうした視点でも読んでいただきたい。

学校教育部長　　アンケートは、事実関係の調査を第一目的として行ったものであるが、一方で今ご指摘があったように、アンケートを記載してくれた生徒さんたちのフォローといったものにも必要なものであると考えている。記載の中には、なぜ何もできなかったのかとか、そういった自責の念を訴えているような記載もあったので、しっかり

と学校と情報を共有しながら対応してまいりたい。

加　藤　委　員　　ぜひお願いする。

今　野　委　員　　当該生徒と同じ2学年の記名回答数が最も少ないが、これは当該生徒と同じクラスの生徒に無記名が多かったからか。

学校教育部長　　2学年は2クラスあるが、当該生徒が在籍していたクラスともう一方のクラスとで、記名回答はほぼ同数となっている。

齋　藤　委　員　　このアンケート調査から離れるかもしれないが、全校生徒がこのアンケートを書くという行為自体が、非常にエネルギーの要るものだと思う。エネルギーを使って真実を述べ、必死に答えてくれた生徒たちの心のケアは、当該生徒さんと同様に、今後も注意をしていかなくてはいけない点かと思う。事案発生後、当該校で保健室利用が増えたとか、休みがちの子が増えたとか、そういう状況はあるのか。

学校教育部長　　生徒たちへのフォローとして、教育委員会からもスクールカウンセラーを派遣するなど対応を図ってきた。現時点において、休んでいる生徒が増えたとか、保健室を利用している生徒が増えているとか、そういう状況は今のところはない。

中　村　委　員　　学校、保護者と情報の共有はとても大切なことだと思った。こういうことがあった今、子どもたちへのケアは心の隅々まですくい取れるようにしていただきたいというのがまず1点。

それから、この「伝えておきたいこと」の記載の中には、子どもだけの意見ではなく、子どもが保護者と話をした内容が書かれていることもあるかもしれない。そういう意味では、保護者との情報共有や信頼回復のために、このアンケートを生かせるような対応をぜひお願いしたい。

教　育　長　　専門委員会でいずれ詳細調査が行われることになるが、このアンケート調査結果は、その大事な基礎資料になる。そういったところで、このアンケートはしっかり生かされていくことと思う。

イ　当該事案に係る体罰アンケートの実施状況について

（教育人事部長　報告）

教育人事部長　　アンケートは6月13日に市長、教育長名で発出した。当該生徒に対する体罰を見聞きしたか、自分自身が体罰を受けたことがあるか、あるいは同級生が体罰を受けているのを見たことがあるかなどを聞いている。今回は、返信用封筒をつけ、直接教育委員会へ返送いただく方法をとっている。21日までの投函をお願いしており、6月26日時点で、258通中167通が返送されてきている。現在、市長部局の総務局とともに取りまとめを行っている最中であり、今後、自死された生徒に関する部分についてはご遺族に確認いただくなどして、公表の形で取りまとめを行っていきたいと考えている。

ウ　全国自死遺族連絡会からの市長あて緊急要望について

（副教育長　報告）

副　教　育　長　　先週6月21日に、全国自死遺族連絡会から仙台市長宛てに「いじめ根絶・自死抑止に関する緊急要望書」が提出された。教育委員会からは私が同席した。なお、自死遺族連絡会代表理事の方に加え、28年2月自死事案のご遺族も同席された。

要望内容は4点あった。1点目として、市長部局へのいじめ防止対策推進室の設

置を求めるもの。2点目として、仙台市子どものいじめの防止に関する条例の制定を求めるもの。3点目として、市立中学校生徒の自死事案の徹底究明を求めるもの。最後に4点目として、第三者委員会の委員について、遺族推薦の有識者の選任を求めるものとなっていた。

当日、この要望書のご説明をいただく中で、団体代表理事の方からは、奥山市長のもとで3人の生徒が亡くなっている事実を重く受けとめてほしいということ。また、4点の要望のうち3番目の自死事案の徹底究明と4番目の第三者委員会の委員の選任については早急に対応していただきたいという旨の要請が強いものとしてあった。

また、平成28年2月事案のご遺族からは、第三者委員会の委員については、遺族が要望する有識者を半数以上入れた上で、夏休み前には調査を実施してほしいこと。それから、今度の調査は2回目となるので、しっかりと調査を行い、再発防止につなげてもらいたいという旨の要請を受けたところである。この件については、市長部局のほうで設置する再調査委員会に関する要望という形で承った。

市長からは、再調査委員会については市長自身のもとで一日でも早く立ち上げたいということ。委員の構成については、ご遺族の気持ちに寄り添う形で選任を進めていきたいこと。要望の中にあった組織や条例の制定については、他都市などの動向も踏まえて検討していきたいというお話をした。

なお、今回の29年4月事案に係るいじめ問題専門委員会についてはご遺族と協議を行っているところである。協議が調った段階において、こちらの場でもあらためて報告、説明をさせていただきたいと考えている。

教　育　長　要望の中身が、市長のほうでご検討いただくものと、私どものほうで直接担当する部分が入っている。今、副教育長から説明があったように、私どもの附属機関であるいじめ問題専門委員会に関しては、今回の4月事案について具体的に調査を進めていただくために準備をしているところである。委員の選任もあるため、今後、教育委員の皆様にお諮りすることになる。このご要望をまず受けとめながら、私どものやるべきことを進めていきたいと思っている。

エ　仙台市議会の対応について

（副教育長　報告）

副教育長　仙台市議会の動きについての情報の提供であるが、先般、閉会した仙台市議会第2回定例会において、「いじめ問題等対策調査特別委員会」が設置をされることになった。全議員による構成で、市議会本会議に準ずる大きな形での委員会となる。今後、一連の自死事案に係る調査等の進捗状況について、市長部局とも連携しながら特別委員会に説明をしていくということになろうかと思う。

この特別委員会の状況についても、教育委員会に逐次報告をしながら進めてまいりたい。

教　育　長　議会においてもこのいじめ問題について調査を行うということで、我々としても説明責任を果たしていきたい。

（２）　平成 29 年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査結果の概要について

（学びの連携推進室長　報告）

資料にもとづき報告

齋　藤　委　員　　学力検査の結果は非常にすばらしいと思う。要因の一つには、アクティブラーニングを効果的に使用しているということもあるのではないか。伸びているところは、このまま継続して伸ばしていっていただきたい。

もう一つ、生活状況の調査で感心させられるところが多かった。例えば、18 ページの 25 番「家の人に、話をしっかりと聞いてもらっている」、26 番「家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」あたりからは、家の人としっかり話をしていることがうかがえる。これは非常に大切なことで、保護者の方たちが子どもたちをきちんと見守ってくださっているということの結果の表れだと思う。

それと同時に、64 番「自分には、良いところがあると思う」、71 番「将来の夢や、目標を持っている」などが低くなっているあたりは、もっといろいろな方たちと話をすることが必要なのかなと感じた。自分の将来のことはなかなか見えない部分もあるし、特に中学生は将来について家族と話をするのは恥ずかしいという面もあるかもしれない。そうであれば、いろいろな職業の経験を持っている地域の人たちと話す機会がたくさんあると、自分の将来についても考えが見えてくるのではないかなという気がした。

教　　育　　長　　生活調査のほうは改善の傾向がはっきり見てとれるという点で、私も少しずつ良くなっているのかなという感じがする。

花　輪　委　員　　学力の目標値は、プレテストでサンプルをとって決めたということだが、毎年、数値は変わるのか。

学びの連携推進室長　　毎年問題を変えているので、プレテストなどを通して適切な目標値を設定している。このため、目標値は年度によって違ってくる。

花　輪　委　員　　そうすると、年度ごとの結果を比較する場合には、例えば今回、小学校 3 年の国語は目標値が 71.2 に対して市の平均正答率が 79.2 となり、8 ポイント上回っているわけだが、前年と比較するときは目標値との差を比べて見ているのか。

学びの連携推進室長　　9 ページの（６）「正答率が目標値と同等以上の児童の割合」をご覧いただきたい。目標値が年度ごとに違うので、年度ごとの比較は、この達成率の変化を見ていくようにしている。

花　輪　委　員　　そうした場合、非常に急激に変わるグラフがいくつかあると思うのだが、急激に変わったということは、どう理解すればいいのか。

学びの連携推進室長　　目標値は、プレテスト等を通して、より妥当性、信頼性の高いものにしている。ただ、例えば資料の 5 ページで、具体的に今年度課題が見られた中学校社会科だが、1 年生、2 年生、3 年生のいずれも社会の「表現」が 5 ポイント以上下がっている。具体的に問題を見てみると、同じ内容の問題を聞くにしても、複数の資料をもとにして答える問題や、特にこの「表現」では文章回答、記述式の回答を求めており、選択式ではないため、問題自体が非常に難しくなる。求めるものが同じでも、その問題の形式等によりかなり差が出てくるところもある。

そういうことができるだけないように、事前に教育センターと学びの連携推進室で問題を吟味しながら、委託業者とも連携しながら取り組んでいるところである。

花　輪　委　員　　齋藤委員が先ほどお話しされたように、年々向上しているということは非常に喜

ばしいことだと思う。ただ、理科が課題なのかなと。私も理科系なので、やはり理科のリテラシーというのは十分につけていただきたく、ご検討願いたい。

続けてもう一つ、特に興味を持ったのは、17ページの19番「良い点数をとると、友達や家族の人から、『がんばって勉強しているね』と言われることがある」と21番「夢をかなえるために、何をどのように勉強すれば良いのか、よく考える」が、昨年度からぐんと割合が上がっている。全学年でこういうふうに上がったというのは、やはり何らかの施策等があって、それが効いたのかなと思うのだが、その辺の分析はどうなっているか。

学びの連携推進室長　本市では、子どもたちの自己肯定感を上げようと、昨年度から非常に力を入れて取り組んでいる。例えば、合同校長会や校長会の例会に出向き、自己肯定感をみんなで高めましょう、地域の方々や保護者の方々とも連携しながら、できることを考えていきましょうと、機会あるごとに学校へ投げかけてきた。

自己肯定感を高めるためには、やはり自分自身に自信を持つことが重要であり、友だちや教員、そして、先ほど齋藤委員からも話があったが、地域の方々など、いろいろな方から認められる場面をつくっていこうと呼び掛けてきた。そういったことが、今回の結果に結びついたものと認識している。

花　輪　委　員　16ページの15番「自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばる」も同様である。成果が上がっているのかなと思う。非常にポジティブに感じる。

今　野　委　員　全国平均と比べると、仙台がどの程度の位置にいるかよく分かるのだが、プレテストをする人の抽出はどのように行っているのか。

学びの連携推進室長　委託業者が他市町村でこのプレテストを行っている。具体的には聞いていないが、3,000人ほどの人数で、信頼性、妥当性を担保できる数を持ちながらやっていると聞いている。

今　野　委　員　3,000人というのは、成績の良い人から悪い人までいろいろか。

学びの連携推進室長　もちろんそこは全部含めてのことである。

ただし、目標値は単純に平均値をとるのではなく、たとえプレテストの平均値が悪くても、これはぜひとも身につけてほしいという部分については、委員会と委託業者と相談しながらある程度プラスした目標値を設定しているところもある。ある意味で期待値というところもある。

吉　田　委　員　目標値のあり方については、ちょっと心配なところもあるが、今回、明らかにその目標値を多くの子どもたちが超えた。これは絶対評価ということで、教職員の頑張り、子どもたち自身の頑張りというのを大いに評価するべきだと思っている。

落ちているところは、何か手だてをしてあげたいという気持ちは誰もが持つと思う。中学校1年生の社会科の「表現」のところだが、これは同一集団としての課題というところもある。小学校6年の算数の応用力の「表現」は、今回も目標値からマイナスポイントになっている。これは今年だけの問題ではない。この同一集団が5年生だった昨年も、そしてその前の年も、「表現」のところでマイナスだった。各々の学校ではなかなかそこまで気づきが及ばないと思うので、こういう同一集団への対応について、教育委員会としてどのような働きかけをしようとしているのか、もし現段階であれば教えていただきたい。

学びの連携推進室長　ご指摘のように、課題があっても、現場の先生が自分のものとして認識しないことには、なかなか授業改善に結びつかないということがあるため、全市的な問題だ

ということについては、校長会等で投げかけている。特に「表現」などは非常に大きい課題である。本年度、国語の成績は非常に良好だったが、細かく見ていくと、先ほどお話しした社会の「表現」に結びついていかない。国語の成績が上がっていても、そのほかの教科の「表現」に結びついていかないというところはやはり問題であり、そういうところも分析しながら、今後、機会あるごとに学校へ訴えかけていきたいと思っている。

学びの連携推進室では訪問サポートというものを行っていて、検査結果の分析を受けて、主任指導主事や指導主事が学校に出向き、学力分析の支援をしている。単に平均正答率の比較だけではなく、問題ごと、観点ごと、あるいは分布がどうなっているかというのを丁寧に見ていって、きめ細かな指導に結びつけられるようサポートしている。こうした具体的な場を通じても、学校の見える形で課題を分析していきたいと思っている。

吉　田　委　員　　これはやがて数学に結びつく。だから、来年の数学にも今回の施策が反映できるように、ぜひ働きを続けていただければと思っている。

もう一つ、これは去年も申し上げたことであるが、生活学習状況調査の結果を確認すると、今回も、学校種が変わり、中学１年生になったこの時期に、生徒たちが変わろうとしている意識が、あらゆる設問に対する回答で見られる。例えば、朝食を食べる割合や、勉強は大切だと思うところ、いじめに関する意識、先ほど出た自己肯定感など、グラフがプラスに動いている。

このことを、すべての中学校の職員の方々に分かっていただきたい。「中１ギャップ」というマイナスの面だけでなく、子どもたちは中学生になって変わろうとしている。子供たちのその意識を保持するために、どうするかということを全職員で共有して対応していってほしい。そのことを具体的な形で働きかけていただきたい。

学びの連携推進室長　　今ご指摘のとおり、この結果を見ると、中１でグラフはぐんと動いている。子どもたちが中学生になり、そこで意識が非常に高く変わっていることが読み取れる。今、学びの連携推進室でも小中連携として、この結果を小中一緒になって、学力も含めて見ていきましょうということで進めているので、今ご指摘のあった点を大事にして、子どもたちの思いに寄り添いながら丁寧に子どもたちの指導に当たっていきたいと考えている。

中　村　委　員　　同一集団による推移は、その学年がどういうふうになっていくか、その年代の傾向が分かるので、この資料はとてもいいものだと思った。吉田委員もおっしゃったが、このグラフでは、どの年代でも必ず中１で意識が上がっていることにとても驚いた。中2、中３と落ちてこないで、キープしてもらえたらうれしいなと思った。

一つ気になったのは、携帯電話・スマホの件である。20ページの所持率を見ると、かなり低年齢化している。親の立場からは、ＧＰＳ代わりだったり、塾や習い事があるために持たせていたりするのではないかとは思う。

これまでは、年齢の低いときは持たせないようにと推奨していたと思うが、低学年の頃から持っているのが現状なので、持っているのを前提とした対策をとらなければいけないのではないか。学校だけでなく、それは保護者にも、家庭でのルールをきちんとしましょうと言っていただければと思う。

それから、「携帯電話やスマホを勉強中に使うことはありますか」というところだが、勉強のアプリもあって、中学校などでも結構使っている子はいるみたいだが、

そういったものは除外し、ＬＩＮＥや遊びのアプリということでの問いか。

学びの連携推進室長　まず、所持率については、私も非常に低年齢化が進んでいるなと思ったところである。今まで高学年を対象に情報モラル教育等をやっていたが、今回こういう実態が分かったので、今後、家庭等への投げかけ方を工夫してまいりたいと思っている。

二つ目のアプリのことだが、アプリの種類までは限定して聞いていないので、恐らく子どもによっては学習のために使っているという子もいるかと思う。

中　村　委　員　テストのほうだが、先ほどの訪問サポートというシステムがあるということをお聞きしたが、学校のほうから来てくださいという依頼があったときに行くということか。

学びの連携推進室長　訪問サポートは、一度、全小中学校の学力向上担当者を集めて分析の仕方を丁寧に検証するのだが、そのほかに、その研修の結果を聞いて、さらに要請をしたいという場合には、学校ごとに要請をしていただき訪問している。

中　村　委　員　例えば校長会でこういった資料が出された場合、校長先生から現場の先生にきちんと情報が回るような形をとっていただきたいというのが一つ。それから、そのサポートも敷居を高くせず、いつでも来てくださいというような形のものであってもらいたいと思う。

教　　育　　長　私からも 1、2 点。10 ページと 11 ページに、同一集団による各教科の学力の推移の表がある。少し気になったのが、理科に関して、今の小学 6 年生が、5 年生から 6 年生になって正答率が大きく下がっていることだ。今の中 1 も、小 6 から中 1 になったとき、やはり下がっている。ほかの学年では変動が少ないので、この推移から見ると、5、6 年生の理科の充実強化をどう図るかというのが課題だと感じる。

生活状況では、27 ページの「自分づくり」のところは、自己肯定感、自己有用感の一つの物差しになっている。震災以降、基本的には上がってきているが、中 2 になると、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来を考えると楽しい気持ちになる」というあたりが急激に下がる。中学 2 年にもなると現実的になるという部分もあろうかと思うが、今、いじめの問題や自死の問題がある中で、中学生になり、学年が進むに従って勉強も難しくなり、成長過程にあって悩みも増えていくところをどうケアしていくか、ということはやはり課題かと感じる。こういうデータをもとにしながら改善に向けて多角的に検討していく必要があろうかと思う。

今のは私の感想だが、こういうデータは、いろいろなことを気づかせてくれる大事な資料なので、検査を継続しながら、学校現場においても十分に活用できるようにしていきたい。

加　藤　委　員　大学生や大人で、自己肯定感が年単位で上がるということはほとんど考えにくい。やっぱり子どもたちは柔軟だなと思うし、周りのかかわりの力でいろいろ変わり得る存在だということをあらためて思う。大人ではなかなかこんな数値は出てこない。

話は外れるが、いじめについても、「する」「しない」「抑える」という何か拘束的な目標よりも、この自己肯定感を上げる方向でのやり方、つまり、なりたい姿をみんなでイメージして、そこに向けて頑張っている姿をみんなで褒めていく、認めていくということは、ぜひやっていきたいことだし、可能性があるのかもしれない。子どもたちはとても柔らかで、私たちのかかわりを素直に受けとめてくれるんだということを思った。

学びの連携推進室長　学びの連携推進室では「たく生き」というプログラムがあり、まさにこれが、自

分の良さを自分で認識したり、あるいは難しいことでも失敗を恐れないでチャレンジしたり、自尊感情を高めるなどの取り組みであり、そこから、いじめ防止等につなげていくというところもあるのかなと、お話を伺って感じたところである。

教　育　長　今回、議会で、ある中学校の取り組みを議員が取り上げていた。「ほめほめシャワー」といって、子どもたちがお互いのいいところを口にしてコミュニケーションをとるというものなのだが、これはすごく有効な方法の一つかと思った。相手を否定するのは簡単であるが、相手のいいところを肯定するという、そういう視点で相手とつき合うというのも、今後の社会に生きていく上で大切なことかと思う。

今、世の中では、卓球やサッカー、さらに将棋で頑張り、注目されている中学生がいるが、そういうことも励みにもなるのかなと思う。中学生の可能性はみんなそれぞれに持っているところをもっと学校や家庭の中で示していければと思う。

（３）　仙台市若林図書館の次期指定管理について

（市民図書館長　報告）

資料にもとづき報告

吉　田　委　員　第１期が３年間、第２期が５年間となっているが、これは規則の改正などによるものか。

市民図書館長　規則の改正等ではなく、募集要項で期間を公表して選定している。初めて仙台市に指定管理制度が導入された広瀬図書館の場合は３年間だった。それが無事終了し、次は５年間で募集した。その後、榴岡図書館は同じ規模の分館ということで５年間、広瀬の３期目も５年間としており、若林の２期目も実績に見合い５年間という指定管理期間を設定した。

教　育　長　今回は分館ではなくて地区館だったので３年間として、少し様子を見るというところもあったかと思う。そういう中で、次は５年間というスパンで募集することは可能だろうという判断もあったかと思う。そういうところでよろしいか。

市民図書館長　はい。

５　付　議　事　項

第 16 号議案　被服貸与規程の一部改正について

（人事課長　説明）

齋　藤　委　員　高所作業中の職員がけがをされたことを受けての改正ということだが、やはりそういうことから必要な保護具を義務づけられるということは、とても良いことだと思う。今後ともぜひこういう形で教職員の身を守っていただければと思う。

花　輪　委　員　男子と女子で対応する被服の品目がかなり違うのはどういうことか。所掌事項の違いかと思うのだが、そうだとすると、どうしてそういう違いになっているのかお聞きしたい。

人　事　課　長　お話しのとおり、男性と女性で主に担当する業務の内容に違いがある。例えば、学校の校舎の外の環境整備、草刈りであるとか高いところへ登っての樹木の剪定、そういった業務については男性のほうが中心になって、女性の職員がそれを補助するというようなことがあり、作業内容に応じた形の被服を貸与している。

花　輪　委　員　理由はそのとおりだと思うのだが、そういう前段の違いを被服貸与規程に持ち込

む必要があるのか。ないのもあると思う。今すぐということではないのだが、そういうところへも配慮して考えていただけたらと思う。

教　　育　　長　　今後の検討として、男女差がなくてもいいのではないかという問題提起かと思う。

人　事　課　長　　職員の意見、声を聞き、実際の業務内容に応じた必要な被服の貸与ということで検討してまいりたい。

原案通り決定

６　　閉　　会